

平成30年産水稻の収穫量（京都府）

－ 水稻の収穫量（主食用）は6万9,800 t －

1 作付面積

平成30年産水稻の作付面積（子実用）は1万4,500haで、うち主食用作付面積は1万3,900haとなった。

2 作柄概況

(1) 平成30年産水稻の作柄は、穂数がやや少なくなったものの、1穂当たりもみ数が平年並みとなったことから、全もみ数は「平年並み」となった。

出穂期以降、8月下旬にかけて、気温及び日照時間がおおむね平年を上回ったものの、9月上旬以降は日照時間がおおむね平年を下回って経過したことから、登熟は「平年並み」となった。

これらのことから、10a当たり収量は502kg（前年産に比べ8kg減少）となった。

また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は98となった。

(2) 作柄表示地帯別の10a当たり収量は、南部が511kg（前年産に比べ7kg減少）、北部が491kg（同12kg減少）となった。

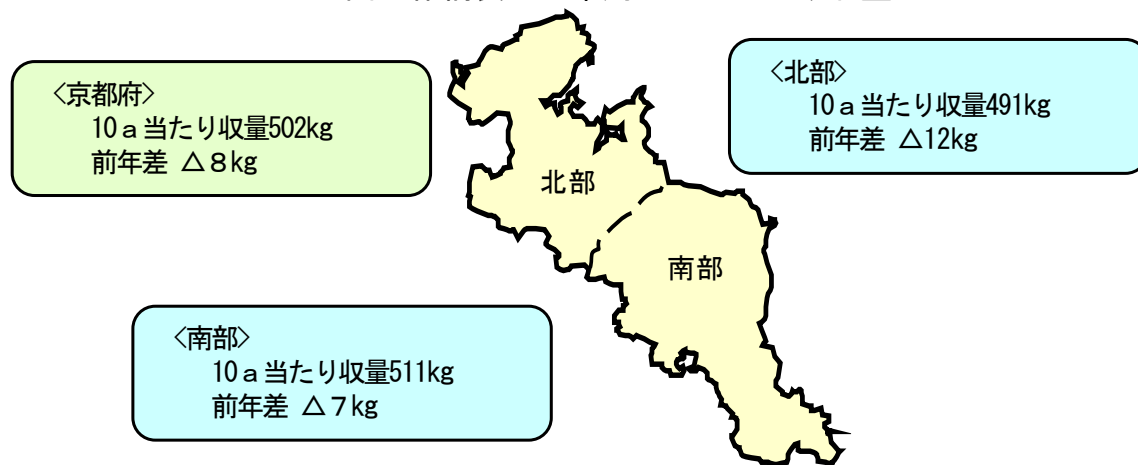
(3) 被害は、山間部を中心にシカ及びイノシシによる獣害等が発生した。

3 収穫量

収穫量（子実用）は7万2,800 t（前年産に比べ2,200 t減少）となった。

うち、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は6万9,800 tとなった。

図 作柄表示地帯別の10a当たり収量



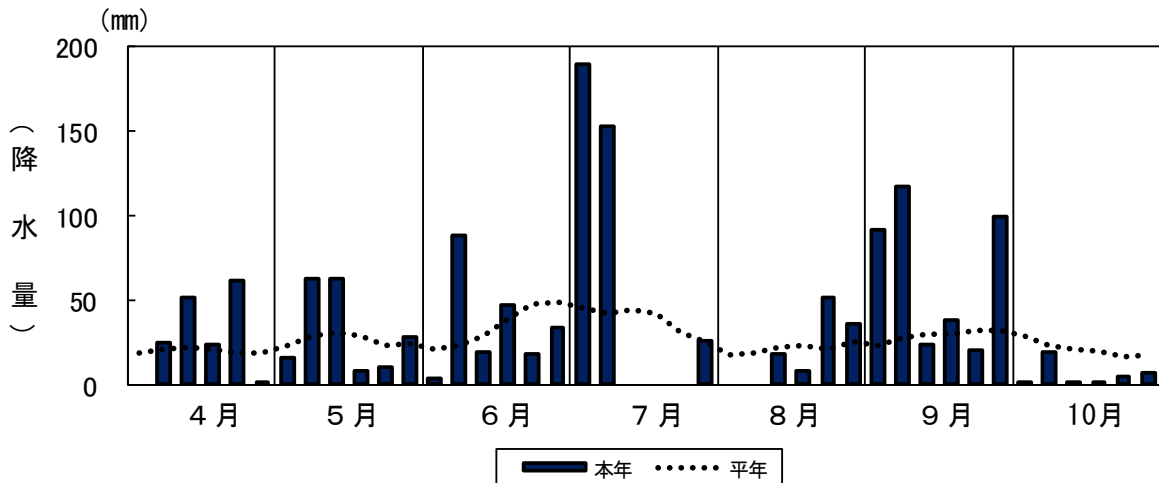
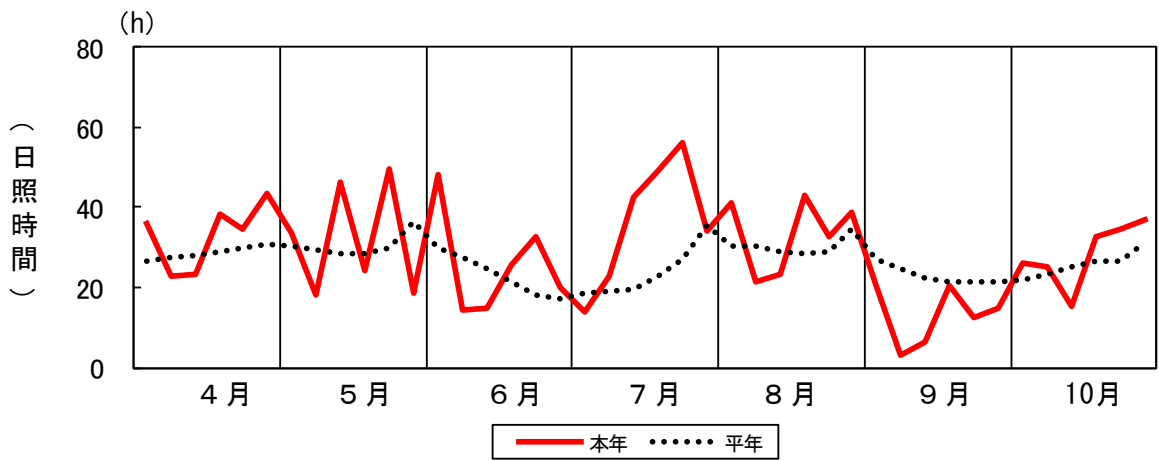
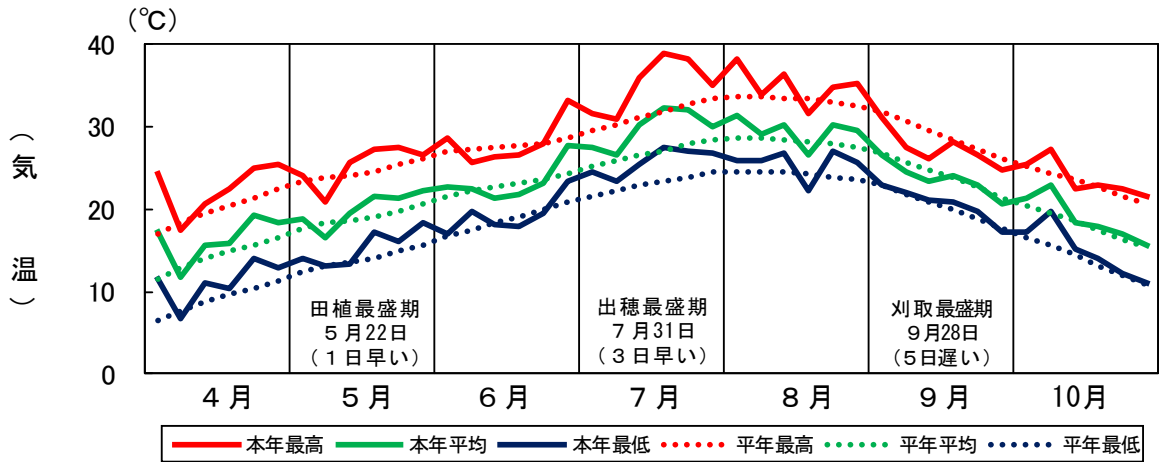
○ この資料は、「平成30年産水稻の収穫量（近畿）」（平成30年12月10日公表）の補足資料として作成したものである。

本資料は、近畿農政局ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/kinki/toukei/toukeikikaku/yotei/2018.html> 】

【参考】

京都府（京都市）の気象



資料：気象庁『アメダスデータ』

注：田植期、出穂期及び刈取期の最盛期は、府平均の期日である。

なお、()は、対平年差である。

【お問合せ先】

近畿農政局 統計部 統計調査チーム（京都府担当）

電話：（代表）075-451-9161 内線 2664

（直通）075-366-2005

FAX：075-451-0079